

平成13年11月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

## ＜カマイタチ＞の 出 る 坂

柚木町3丁目692番地の先にある坂は、昔から「カマイタチが出るから、気をつけるんだぞ」と親からいわれていたところです。20年ほど前までは、1メートル足らずの狭い坂道でした。山際を通っている旧道から、吉野街道に出る坂です。吉野街道から上っていくと、左はケヤキなどの大木が生い茂る藪、右は一段低くなった畑でした。昼間でも薄暗く、どこから出てくるのか水が浸み出していて、いつもじめじめしていました。このあたりは、カマイタチの出やすいところなのか、すぐ近くに住んでいたO氏は、2度もカマイタチに切られました。1度目は、子供のころで、坂道で転んだ拍子にスネを切られ、2度目は、山で枝落しをしていたときでした。木の上で仕事をしていてナタが、ちょっと膝をかすめたかなと思ったが、痛くもなかったのもそのまま仕事を続け、降りてズボンをめくってみると、膝下がぱっくり切れていたということです。またズボンは、傷ひとつなく、血も出ていなければ、痛くもなかったそうです。O氏の母親は、庭の鶏小屋に行こうとして、肘を大きく切られました。そのほかにも、指、首筋、足、手などさまざまなところを切られた経験を持つ人が、いました。現代でもスポーツのときにカマイタチに切られたという人の話を聞きます。妖怪カマイタチは、現在にも存在するようです。

江戸時代の絵師、鳥山石燕は、画図百鬼夜行の中に、イタチに似た獣が、渦巻く旋風によって、鎌状の爪を振り上げている絵を描いています。カマイタチは、甘酒が好きなので、出そうなところに供えたり、キツネが嫌いなので、キツネの鳴きまねをするとカマイタチに出合わないともいいます。

カマイタチは、信越地方の山沿いに多いようですが、関東でも「関東カマイタチ」と呼ばれる言い伝えがたくさんあります。主に冬の空っ風が吹くころに多く起こるといわれていますが、夏や秋にも起こっているようです。カマイタチは、七曲がりや切り通し、峠道に出やすいといわれ、七国峠、正丸峠などが有名です。八王子市の大垂水峠には、12月から2月までの8の日には、峠を越えるな、という言い伝えがあるそうです。この時季は、強い風が吹いたり雪が降ったりして、転びやすくなったりしてカマイタチに出合うことがあったから

(裏面へつづく)

でしょう。

現代風にいえば、カマイタチは、気圧の急激な変動で起こるとか、小旋風によって一時的に真空状態になったときに起こるといわれています。

カマイタチという妖怪を想像した昔の人達の生活は、現代よりずっと自然と人との濃密に結びついていたことを物語っているのだと思います。現代にもなお存在するカマイタチは、とにかく自然を甘く見がちな現代人への警鐘なのかも知れません。 （文責 小 川 秋 子）